株式会社 KSP大黒神奈川共同防災センター

2024　4月号

大規模災害に備えた安否情報の活用

近年、集中豪雨や震災、大雪など甚大な被害をもたらす災害が増えてきています。

自然災害は、我々の想像を超えて襲ってくることもあり、防ぐことはできませんが、万が一災害にあった場合、安否情報を確実に伝達する準備も重要となります。

大規模災害発生から6時間程度は、救護要請や緊急連絡が優先となり、電話やインターネットが繋がりにくくなりますが、「災害伝言ダイヤル(171)」や「LINE安否情報」を活用した安否情報で伝達できます。

災害伝言ダイヤル(171)

https://guide.line.me/ja/features-and-columns/emergency-tips.html

LINE安否情報

https://guide.line.me/ja/features-and-columns/emergency-tips.html

共同防災センターがある横浜市内で震度5強を観測または、南海トラフ地震の警戒宣言が発令された場合、自動参集となり公共交通機関が機能していなくても有事に備えた態勢を取るため、連絡手段の方法及び情報の共有を図る通信訓練を定期的に行い、準備をしております。

今後「30年以内に70%」の確率で発生する首都直下地震により、公共交通機関である鉄道が打撃を受けた場合、各社によって巡回内容は異なりますが、震度5弱を観測した場所では、徒歩巡回による軌道(線路)の確認が実施されます。

また、震度5強以上になると、踏切や信号機等の設備に異常の有無を徒歩巡回で実施し、安全が確認できるまでは運転見合わせとなり、設備に異常があれば修理を行うため運転再開の目途が立たず、帰宅困難者になる可能性がありますので、どの安否情報を使用するか事前の確認が大切になってきます。

安否確認は、不安を和らげ安心感に繋がり、被災時の「人」の心理と行動に直接関わる重要な「生き残るための必要条件」となり、今後どのような行動を取るべきか把握しやすくなるメリットがありますので、ご検討いただけると幸いです。

担当　君島広道

3分でできる避難訓練　スマホ避難シミュレーション　地震編

震度6強の地震・近所で火災が発生した想定の中で、近年話題となっているフェイク画像によるSNSによるデマや、火災の危険性・避難の妨げになる　心理傾向についても学ぶ事ができますので、この機に体験してみて下さい。